

植調協会だより

◎ 人事異動

平成22年1月1日付

命 事務局技術部技術第二課係長 筒井 芳郎

命 事務局技術部技術第二課

岸野 満

「話のたねのテーブル」より

オオオナモミの大繁殖

岩瀬 徹

オオオナモミは昭和初期(1927年)に最初に記録されたといわれるが、あるいはそれ以前から渡来していたかもしれない。近年、アレチウリやオオブタクサなどとともに各地に侵略的な繁殖ぶりを示している外来種である。

千葉県八千代市の中央を貫く新川というのがあり、川の両側は広い水田や畑地帯となっていた。休耕地も増えてそこはヨシやオギあるいはセイタカアワダチソウ群落などになっていた。ところが最近、オオオナモミが増えだし、気がついたら大群落が出現していた。2008年の秋に見たときも、少し大げさに言えば見渡す限りオオオナモミに覆われていた。高さは1.5mほど、ほとんど純群落である。

花序は先のほうに雄の頭花、基部のほうに雌花をつける。雌花は硬い果包に包まれ、まわりにかぎ状のとげが密生している。花が終わるとこの果包が大きくなり、「ひつつき虫」になる。中に大小2個の果実があり、大きいほうは翌年発芽するがもう1個はさらに休眠して、その後に発芽するといわれる。

同じ場所を2009年の春、見に行った。そこはネズミギク類のような牧草に覆われていた。種子を播いたかどうかはわからない。ところが夏にはその下にオオオナモミが伸び出しているのに気づいた。そして9月には前年と同じような大群落になった。牧草とオオオナモミが季節的に住み分けているのかどうか

今後、観察を続けないといけない。

実をつけたオオオナモミの群生は厄介である。中へ入り込むこともできない。これを抑えようとするなら、結実前に刈り取り、それを何年か継続して埋土種子の枯渇を図らないといけないであろう。

ちなみに、在来種とされるオナモミはなかなか見つからなくなった。ただオオオナモミとの中間的なものがあるが、気になるが。

(全国農村教育協会ホームページ連載「話のたねのテーブル」No.67より転載。)

<http://www.zennokyo.co.jp>



▲千葉県八千代市新川の休耕地に広がるオオオナモミの大群落

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 (03) 3832-4188 (代)

FAX (03) 3833-1807

<http://www.japr.or.jp/>

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小川 奎

発行人 植調編集印刷事務所 元村 廣司

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会

植調編集印刷事務所

電話 (03) 3833-1821 (代)

FAX (03) 3833-1665

平成22年1月発行定価525円(本体500円+消費税25円)

植調第43巻第10号

(送料270円)

印刷所

(株)ネットワン